

公益財団法人応用科学研究所

令和５年度定時評議員会議事録

1. 開催日時 令和５年６月１５日（木）１４：００～１５：００

2. 開催場所 公益財団法人応用科学研究所森記念研究棟 2F 会議室
京都市左京区田中大堰町 49 番地

3. 評議員現在数及び定足数

現在数 10 名、 議案の定足数 6 名（通常議題）

4. 出席評議員数 8 名

（評議員出席）石坂 章、上田 圭志、鴻野 雄一郎、仁田 旦三、藤岡 直人、三浦 秀士、
三阪 佳孝、吉田 英生、

（監事出席）西 亨、村上 博保

（理事陪席）大原 久典、川寄 一博、北野 正雄、久保 愛三、成宮 明、野村 剛、
野村 俊雄、松岡 裕明、山路 伊和夫

（議案説明及び報告）久保理事、野村理事、成宮理事

5. 議題 第 1 号議案『令和 4 年度事業報告書及び附属明細書、収支決算書及び附属明細書
並びに財産目録の承認』を求める件
第 2 号議案『理事の選任』に関する件
第 3 号議案『評議員の選任』に関する件

報告事項 1. 理事会報告

2. 機械基盤研究会の活動状況について

6. 開会・議長選出並びに議事録署名人選出

定刻 14：00 に出席予定者全員が出席。久保理事長の挨拶の後、事務局から本日の出席者について、評議員 8 名の出席と監事 2 名の出席、及び理事 9 名の陪席で、会議は成立していることが報告された。続いて、定款第 25 条の規定に基づき出席評議員の互選により、仁田旦三評議員が議長に選出された。

評議員会議長が開会を宣し、まず定款第 30 条に、議事録には議長と、出席した評議員のうちから選出された 2 名が記名押印することとなっている旨の説明があった。議長から三阪評議員、並びに上田評議員が指名され、両人もそれを承諾し、議長及びこの両評議員が議事録署名人となった。引き続き議案の審議に入った。

7. 議事の経過の概要及びその結果

第 1 号議案 『令和 4 年度事業報告書及び附属明細書、収支決算書及び附属明細書並びに財産目録の承認』を求める件

議長の求めにより、まず事務局から詳細の説明が行われた。引き続き、議長から、去る 5 月 18 日に公益財団法人応用科学研究所応接室において行われた監事監査の結果について、監事の報告が求められ、西監事から業務監査の結果について、監事監査規程に基づき、事業報告書及び理事の職務の執行について問題がなかったことが報告された。また村上監事からは、監事監査規程に基づき、会計帳簿並びに関係書類の閲覧を行い、計算書類及び附属明細書並びに財産目録は法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める旨、報告された。

これらの報告に基づき、第 1 号議案について議長から各理事の意見が徴された後、全員異議なく、本件は可決承認された。

第 2 号議案 『理事の選任』に関する件

議長の求めに応じて 理事長から下記の説明があった。

本法人が公益財団法人に移行して以来 12 年が経過し、9 年前に新しく発足した機械基盤研究事業もコア事業として確り根付いたものの、法人を取り巻く景況等は依然として不透明であり、経営上の課題も多く抱えている。このような状況の中で本法人の更なる発展を図るためには、従来の経緯を踏まえた上での運営と改革に加えて、新たな発想が必要であり、今回は、一部の重任理事の他に、新たに 2 名の新理事を迎えたいこと。即ち、新任候補の仲田摩智氏には、ものづくりから営業を含む事業運営、会社経営までの、これまでの経験・見識を活かして頂くべく、また中務陽介氏には、若手ながら技術や生産の管理部門を中心とした豊富な経験に加え、海外経験に基づくグローバルな視点を活かして頂くべく、新たに次期理事に就任して頂くことが適切と考えられるとの説明があった。

議長は、以上の理事長提案内容について評議員会に諮り、その案を本日の評議員会で正式に取り上げることとし、審議を行った。理事の選任については各候補者毎に適否の採決を行い、その結果、理事長提案の 10 名全員について出席評議員全員一致で次期理事に選任することを決した。

重任の理事は、大原久典、川寄一博、北野正雄、久保愛三、成宮 明、野村俊雄、松岡裕明、山路伊和夫の各氏 8 名であり、新任の理事は仲田摩智、中務陽介の 2 氏である。なお、全新理事の任期は令和 7 年度の定時評議員会終了までの 2 年間である。

第 3 号議案 『評議員の選任』に関する件

議長の求めに応じて、事務局から下記の説明がなされた。

現評議員 10 名は、本定時評議員会の終了時点でその任期が終了する。第 2 号議案で審議した新理事選任と同様の観点から、できれば一部の評議員には重任をお願いして、評議員会の連続性を維持することが望ましいと考えられる。また研究所としては先行き不透明な次のステージに向けて適任と考えられる新評議員を選任し、加わって貰うことが望ましい。そのような観点から、事務局としては種々勘案して 2 名の新評議員候補を選び、それら候補者の履歴及び推薦書を付して既に現評議員全員に送付した。加えて、現評議員からも適任者の推薦を求めたところ、さらに 1 名の推薦があった。そのような経緯を踏まえて、事務局としては本日、7 名の重任候補及び 3 名の新任候補の資料（リスト）を用意している。

議長は、事務局からの説明と原案の作成は当を得ていると判断し、事務局提案の資料を本評議員会に提示させることの可否を諮った。全員異議がなかったため、事務局からの 10 名の候補者に関する資料が提示された。

新規の評議員候補は大野正夫、松原 厚、浜田誠一郎の 3 氏で、重任を求める候補は、上田圭志、鴻野雄一郎、仁田旦三、平尾一之、三阪佳孝、森 雅彦、吉田英生の 7 氏である。これらの候補 10 名を次期評議員の候補とすることについて諮られ、全員異議なく了承された。引き続き、各候補について一人ずつ適否が審議され、すべての候補について異議はなかったので、それぞれ出席評議員全員一致で次期評議員 10 名全員の選任が決められた。本評議員会で選任された 10 名の次期評議員の任期は、令和 9 年の定時評議員会終了までの 4 年間である。

8. 報告事項

議長はこれまでに開催された理事会について事務局に報告を求めた。

事務局から、令和 4 年 6 月 16 日の定時評議員会終了以降、理事会は、本年 3 月 20 日の令和 4 年度第 2 回理事会、並びに 5 月 30 日の令和 5 年度第 1 回理事会の計 2 回開催された。本年 3 月 20 日の理事会についてはその議事録が全評議員に送付されているので、今回は本年 5 月 30 日開催の令和 5 年度第 1 回理事会議事録のみを報告資料として添付し、説明は省略するとの報告があった。

続いて、もう一つの報告事項として成宮常務理事より、機械基盤研究会の活動状況状況についての報告がなされた。

以上をもって、全ての議案の審議は終了したので、議長は閉会を宣し、解散した。

上記の決議を明確にするため、定款第 30 条第 1 項及び第 2 項により、評議員会議長、及び指名された 2 名の評議員が議事録署名人としてこれに署名、押印する。

令和 5 年 6 月 15 日

公益財団法人応用科学研究所令和 5 年度定時評議員会

議事録署名人

評議員会議長 仁田 旦三

評議員 上田 圭志

評議員 三阪 佳孝